

風水害・土砂災害について ①

風水害に備える

台風や集中豪雨では強風や激しい雨が降るため、時として家屋への浸水、河川の氾濫、土砂災害など様々な被害が想定されます。風水害に備えて日頃の安全対策をしっかりと行いましょう。

天気予報や気象情報に注意

台風や豪雨はある程度の時期や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。



家の内外を点検整備

トタンがめくれている、アンテナが不安定になっていると強風や台風時の被害の元になります。日頃の点検を忘れずに!



避難場所・避難経路を確認する

防災ハンドブックに示されたあなたの近くの避難場所やその道順を確認しておきましょう。目印になるものをおぼえておくことで便利です。



非常備蓄品・持ち出し品を準備する

いざという時のために、非常備蓄品や持ち出し品を用意しておきましょう。p50の「非常持ち出し品」を参考に、応用代用を考えながら、家族で準備しましょう。



風雨による危険度のチェックポイント!!

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは「**注意報**」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「**警報**」を、さらに、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときには「**特別警報**」を発表します。テレビやラジオ、インターネットなどから最新の情報を入手して、災害に備えましょう。

1時間雨量による雨と被害の目安

やや強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm)	猛烈な雨 (80mm以上)
ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。	どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川の氾濫、崖崩れの心配もあります。	バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。	滝のように降り(ゴーゴーと降り続き)、土石流も発生しやすくなります。	息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

風と被害の目安 ※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

やや強い風 (風速10~15m/s)	強い風 (風速15~20m/s)	非常に強い風 (風速20~25m/s)	猛烈な風 (風速25~30m/s以上)
風に向かって歩けなくなります。樹木や電線が揺れはじめます。	風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。看板やトタン板がはがれはじめます。	シャッターの破損やビニールハウスが倒壊するなどのほか、風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれもあります。	ブロック塀が壊れたり、取り付けの不完全な外装材が飛び危険があります。

土砂災害に備える

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増えて地盤が緩み、さらに長雨や集中豪雨が続いた時に発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

こんな前ぶれ現象に注意!!

土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨によって一気に下流へと押し流される現象。

- 河川の異常なにごり
- 流木が発生
- 河川内の転石の音
- 降雨時での水位の急激な低下
- 山鳴り・地鳴り

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

※地すべりの予測は技術的に困難であり、土砂災害警戒情報の発表対象となっていないので注意してください。

- 湧き水の量が増える
- 井戸水のごり
- 亀裂の発生
- 山鳴り・地鳴り

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象。

- 湧き水の量が増える
- 小石がばらばら落下
- 湧き水にごり
- 小石がぼろぼろ落下
- 亀裂の発生

土砂災害から身を守るためには?

雨に注意する

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから80ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

ポイント
80ミリを越えたら要注意!

土砂災害警戒情報に注意する

「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、町長が避難指示等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、北海道と気象庁が共同で発表する防災情報です。早期避難の判断に役立ててください。